



B型肝炎はワクチンで予防！



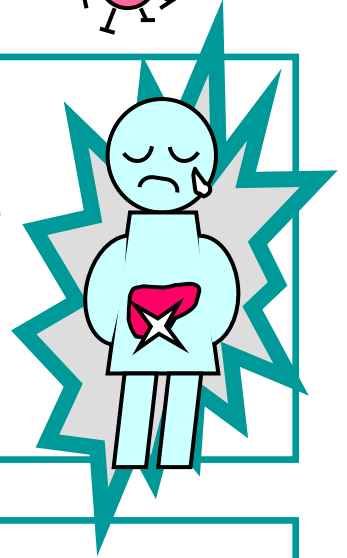
どんな病気？

B型肝炎ウイルスの感染が原因の、肝臓の病気です。

この**ウイルス**は感染した人に、急性あるいは慢性の、肝臓の炎症を引き起こすことがあります。

ウイルスが体の中に持続的に住みつく（**キャリア化**）、**慢性肝炎**や**肝硬変**を起こし、さらに**肝臓がん**へ進行する場合があります。

また、**劇症肝炎**になり、命の危険にさらされるケースもあります。



感染のしかたは？



B型肝炎ウイルスは、主に**血液や体液**を介して感染します。感染している人とのカミソリの共用や性交渉などは、感染のリスクが高い行為です。

免疫力が弱い乳幼児は、感染すると**キャリア**になりやすいことが知られています。キャリアの状態は症状がないため、**気づかない間に他人へうつす可能性**があります。

ワクチンを受けておくと？

乳児のうちに**ワクチン**を接種して、**B型肝炎ウイルス**に抵抗できる**免疫(抗体)**ができれば、**キャリア化**しやすい子供の時期に、体内に**ウイルス**が入って来ても**排除**されます。

そして、将来、発病するかもしれない**肝臓がん**等の**予防**につながります。

世界の多くの国では、既に**B型肝炎ワクチン**が子供の定期接種になっています。



ワクチンを受けるには？

B型肝炎ワクチンで十分な免疫をつけるには、**3回の接種**が大事です。3回接種後の効果は20年以上続くと考えられています。

生後すぐ受けられますが、接種スケジュールについては、かかりつけ医に相談しましょう。医師が認めた場合、**他のワクチンとの同時接種**も可能です。

定期接種として、**年齢によっては無料**で受けられます。かかりつけ医あるいは横浜市予防接種コールセンター(045-330-8561)に、お尋ねください。なお、妊婦がキャリアの際に**母子感染防止**として行う**ワクチン**接種は、健康保険の給付対象です。

